

2020年度・公式規則変更予定報

公益社団法人日本アメリカンフットボール協会
競技規則委員会



公益社団法人日本アメリカンフットボール協会競技規則委員会では、現在2020年秋季公式戦から適用される公式規則の変更作業を実施中です。

この「2020年度・公式規則変更予定報」は、本年の公式規則変更を予定している主要項目に関して概要を説明し、各競技団体の早めの対応を可能にするために発行されるものです。本予定報に記載している内容は、今後の作業により追加あるいは変更の可能性があります。

*正式には本年7月上旬に発表予定の「2020年度・公式規則変更内容・決定報」で公示いたします。

注*: 当委員会は、NCAA(全米大学体育協会)の競技規則変更内容をベースに変更作業を行っています。

NCAA では、4月中旬に規則変更内容が決定され、その後5月の競技規則書発行時に、編集上の変更項目が織り込まれます。本予定報は現時点の情報をもとに、競技規則委員会で決定されたものです。決定報では、5月のNCAAの競技規則書を反映し、競技規則委員会が決定したものを公示いたします。

2020年度・公式規則変更予定主要項目

2020年度の公式規則変更として予定している主要項目は、次のとおりです。なお、各々の解説の最後の()内の英数字は、この変更が行われる予定の公式規則の主たる「篇一章一条」を表します。

(1) 番号の規制の変更

- ☆ 従来、プレーヤーの番号に「0」は認められていなかった。
- ★ 本年より、プレーヤーの番号として「0」も認められる。すべてのプレーヤーは、0 から 99 までの番号を付けなければならない。番号の頭に「0」を付けてはならないことは、従来のみである。

(1-4-2 変更)

(2) ジャージ併用の規定の変更

- ☆ 従来、試合中にベストや2枚目のジャージを重ねて着用することは禁止されていた。
- ★ 本年より、試合中に2枚目のジャージを重ねて着用することは認められる。なお、ベストの着用禁止は従来のみである。なお、プレーヤーがジャージの番号を変更して試合に参加する場合は、従来どおりレフリーにその旨を報告しなければならない(1-4-2-d)。

(1-4-5 変更)

(3) ターゲティングの反則により資格を没収されたプレーヤーの規定の変更

- ☆ 従来、資格を没収されたプレーヤーは、フィールドから見えない場所に留まらなければならなかった。
- ★ 本年より、ターゲティングの反則により資格を没収されたプレーヤーは、チーム エリア内に留まることができる。暴力行為、2回のスポーツマンらしくない行為、あるいはひどい反則などの他の理由によ

て資格を没収されたプレーヤーについては従来のみである。

(2-27-12 変更)

(4) 試合前のウォーム アップに関する規定の追加

☆ 従来、試合前のウォーム アップに関しては、フィールドに立ち入ることができる時間のみが規定されていた。

★ 本年より、試合前のコイントスまでの間に、ウォーム アップのためにプレー場内(2-31-5)に登録選手が入る場合は、コーチまたはアシスタント コーチがフィールドにいないといけない。また、試合前のウォーム アップでプレー場内に入る登録選手は、自分のジャージもしくは自分の番号が容易に視認できる衣服を着用しなければならない。(着用のない登録選手はプレー場内に入ることはできない。)

(3-1-1 追加)

(5) B チームの交代違反に関する規定の変更

☆ B チームはオフェンス チームのフォーメーションに対応するために、一時的に 12 人以上のプレーヤーがフィールドにいても良いが、スナップされる時には 12 人以上いてはならない。従来、B チームの交代違反の反則は、A チームの場合と同様に、デッド ボール中の反則となる場合とライブ ボール中の反則となる場合があった。

★ 本年より、B チームのプレーヤーが 12 人以上フィールドにいたことによる交代違反の反則は、すべてライブ ボール中の反則となる。なお、その他の交代違反(3-5-2 および 3-5-3-a)については従来のみである。

(3-5-3-b 変更)

(6) スクリメージ キック プレー時にディフェンス ラインマンがセットする位置の制限の追加

☆ 従来、スクリメージ キック フォーメーション時のスナッパーに対する接触の規定はあったが、スナッパーに対してセットする位置についての規定はなかった。

★ 本年より、スクリメージ キック フォーメーションにおいて、スクリメージ ラインから 1 ヤード以内に位置するディフェンス ラインマンは、スナップ時にスナッパーのフレームから完全に外れて位置しなければならない。なお、スクリメージ キック フォーメーション時のスナッパーに対する接触の規定(9-1-14)は従来のみである。

(6-3-14 追加)

(7) 同じ番号のプレーヤーの規定の追加

☆ 従来、同じ番号を付けたプレーヤーの人数に関する規定はなかった。

★ 本年より、3 人以上のプレーヤーが同じ番号で登録する、あるいは同じ番号のジャージを着用することは反則となる。この違反はスポーツマンらしからぬ行為の反則となる。なお、同一ダウン中に、同一チームの 2 人のプレーヤーが、同じ番号を着用してはならないこと(1-4-2-b)、および同じポジションの 2 人のプレーヤーが試合中に同じ背番号をつけてはならないこと(9-2-2-d)は従来のみである。

(9-2-2 追加)

(8) 超過節に罰則を持ち越せる条件の変更

☆ 従来、選択により次のキックオフに持ち越すことができる罰則施行のうち、超過節のサクシーディング

スポットで施行できると規定されているものは限られていた。

- ★ 本年より、次のキックオフに持ち越す選択があるすべての反則に対する罰則は、次の超過節のサクシードイング スポットで施行することができる。(10 変更)

(9) インスタント リプレーによるクロック修正の規定の変更

- ☆ 従来、フィールド上の判定では前後半終了となったプレーで、試合時間が残っているとリプレー オフィシャルが判定を変更(リバース)し、かつレフリーのシグナルで計時開始となる場合、残り時間にかかわらず、その試合時間で再開となっていた。
- ★ 本年より上記の場合、残り時間が 3 秒以上であれば、ゲーム クロックを戻して試合を再開するが、残り時間が 2 秒以下の場合はその前後半は終了となる。リプレーの判定によって、スナップで計時開始となる場合は従来のみであり、その試合時間にゲーム クロックを戻して試合を再開させる。

(12-3-6 変更)

(10) インスタント リプレーによるレビュー時間の規定の追加

- ☆ 従来、インスタント リプレーによるレビュー時間に関する規定はなかった。
- ★ 本年より、インスタント リプレーによるレビュー時間は 2 分間以内であることを基本とする。ただし、判定が複雑な場合、あるいは試合終了間近の重要な判定の場合はその限りではない。インスタント リプレーによるレビュー時間は、レフリーによるレビュー開始のアナウンスの終了時から、レビュー完了後のレフリーによるアナウンスの開始までである。

(12-6-2 追加)

以上